

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100308		
法人名	株式会社EPO		
事業所名	グループホームえん(さくらユニット)		
所在地	福岡県北九州市門司区田野浦二丁目9番33号		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果確定日	令和5年10月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナがようやく落ち着きバスハイクで海響館にドライブに行ったり、行事では外部からの太鼓の披露やボランティアの協力を頂くこともできた。感染対策を行いつつのことではあるが外からの風が入ってきている。小規模、グループホーム職員に感染者が出たが、感染対策の徹底により拡散する事はなかった。今後も感染対策の徹底を図りご入居者を守って行くことを職員一同で取り組んでいく。また、グループホームえんが10周年の節目を越え、看取りケアにさらに力を入れて取り組んでいくにあたり、同法人内の訪問看護立ち上げが大きな力となって動いている。感染対策や看取りに対しての研修に協力していただいたり、入退院時の対応にも同席や付き添ってもらうことでさらに医療連携を深めることが出来ている。今後も、ご入居者とご家族に最期の時まで安心して生活していただけるように努力を重ねていきたいと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「介護の仕事に夢とプライド」をさらに具現化したいと運営者による「17の心」の講和が始まり、今年度も法人全体で虐待に関する研修を定期的に開催し、入居者が選択できる環境を整え待つ姿勢の介護に取り組んでいる。食器洗いなどの役割の提供で物盗られ妄想を防止したり、傾眠傾向には覚醒を促して誤嚥防止に努めながら、希望の食形の食事を支援し、ホームで最期を医療機関から帰園された方は1ヶ月位で逝去されたが、かかりつけ医や系列の訪問看護と連携しながら、看取りを自然なこととして全職員一丸となって取り組むなど、最期まで安心できる生活の場となっている。家族に入居者の暮らしをホーム便りやブログなどで報告し、運営推進会議では認知症のみならず介護や生活に役立つ情報を発信する知恵テラス開所を案内し、自然災害時の一時避難の申し出を受け入れるなど、今後も地域に密着したサービスの展開が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

 ユニット/
事業所名 さくら／グループホームえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議開始時に職員で理念の唱和を行うようにしている。今年度は理念を理解するうえで共通言語を持つと、と社員の心得として17の心について社長研修が行われている。	理念の「介護の仕事に夢とプライド」をさらに具現化するために、運営者による「17の心」の講和が始まっている。「職員の事を考えて、理念を掘り下げてもらい、職員同士で連携しやすい」と話す職員もある。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は運営推進会議が毎回開催できている。地域の動きも活発になっており行事などへの声もかかるようになってきた。町内会の一員として参加できることには積極的にかかわって行く旨を伝えている。	来月は市民センターでのふれあい文化祭に参加予定である。これまでの交流に感謝し今後も地域に貢献したいと、閉鎖した小規模多機能の利用者を夏祭りに招待したり、1階地域交流室(夢咲村)や玄関ホールなどで知恵テラスの開催や地域の方々の作品展を予定している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へは施設が認知症のみならず介護や生活に役立つ情報の発信地として使っただけのように夢咲村を「(仮)人生100年を楽しむための夢テラス」として年間計画を立てて動き出そうとしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催する事ができ、以前の様な情報交換ができています。町内への発信事は回覧板を利用させていただき協力を得ている。今後もサービス向上に向けたご意見などを活かしていく。	運営推進会議は、家族や民生委員、町内や自治会の会長、市民センター館長、地域包括支援センター職員などで開催され、会議録は玄関で公表している。前回は新事業や知恵テラスについて説明し、参加者から地域の情報提供とともに自然災害時の受け入れの要請があった。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは運営推進会議で地域包括や民生委員の方の意見をうかがうにとどまっている。もう少し積極的に協力関係を築いていくように努める。	毎月市の担当部署にFAXで居室情報を提供したり、市から無料で配布された抗原キットで毎週感染状況を判定し、感染防止に努めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないとしている中で転倒などの予防のために動きを止めてしまう声掛けや言葉などにも注意しあい、協力しあって支援を行っている。繰り返しスピーチロックゼロに取り組んでいる。	定期的な身体拘束適正化委員会や外部研修の参加を推進し、不適切なケアの周知や理解に努めている。車椅子から動こうとしたり「家に帰る」には、全職員で適切な声かけや見守り、同行を實踐している。調査日、玄関の椅子に座り傍の職員と話す入居者の穏やかな表情から、日頃の対応が伺えた。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度も引き続き全体研修で虐待防止に関する事案で取り組んでいる。自己決定をテーマに事前研修を行い、2回に分けて全体研修を行うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修のほかに内部研修を予定している。内部研修に関しては事前に研修資料の読み込みを行い、分からない所や理解できない所を上げて詳しく説明できるようにする予定。より理解していただくよう工夫していく。	月1回任意後見人の訪問があると顔が綻んでいた入居者が逝去され、現在は日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はないが、随時紹介できるように事業や制度の資料を整備し、研修を継続している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できるだけ、契約前の説明でグループホームえんでの支援内容や重要視していることなどを説明。契約では、分かり易い言葉で内容説明を行うように心がけている。改定に関しては速やかにお知らせし了承を得るようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関しての意見などは中々うかがうことがない。こちらからの提案に意見などを伺うことはできる程度である。	定期的に明星新聞を発行し、運営推進会議録を送付する際には、行事の折の入居者の写真を同封して喜ばれている。家族からホームページのブログの感想が寄せられたり、LINEでやり取りする家族もある。ホームの案内で2名の家族が外出ボランティアとしてバスハイクに同行している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎月の会議で社長研修として講義され、一人一人に話しかけている。管理者は常日頃から個別に声掛け意見などを聞けるように心がけている。	毎月ユニット全体会議が開催され、率直な意見交換の場となっている。念願のリフト付き浴槽の完成を全職員で喜び、ソファや体位交換用のクッション、座面が容易に清掃できる食事用の椅子が購入されている。日々の気づきや意見を管理者が集約している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により各自の努力や成果などが反映できるようになっている。面談ではさらに向上心が持てるようにそれぞれの気持ちに沿った目標を掲げている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員間で協力しあいそれぞれの能力に合わせて業務を進めている。職員の採用で性別や年齢当で排除するようなことは行っていない。	福祉のプロとして入居者や職員自身の満足度を向上し、学習する組織を目指して、内外の研修に参加している。20～70代の男女の職員が夫々の状況に応じて就労し、階下の小規模事業の閉鎖に伴う異動もあり、12月は外国籍の方が2名入職予定である。開所以来勤務し、「介護の仕事が天職だ」と話す職員は膝を痛めているが、職員間の協働で生き生きと就労している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	看取りケアまで行う施設として、個人個人を尊重し、最期までその人らしくられるように支援している。言葉使いや介護姿勢などで気になる事があればその都度指導して、必要であれば職員全体で意見交換を行っている。	法人の全体で虐待に関する研修を定期的に関催している。事前に自己決定について学習し、入居者が選択できる環境を整え、待つ姿勢の介護に取り組み、「今行っていることは支援ですか」と問いかけている。	理念の「介護の仕事に夢やプライド」の具現化のために、カスタマーハラスメント対策への取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体研修として法人全体で毎年度研修を開催。他の事業所と意見交換を行っている。外部研修後はフロア会議などで研修のまとめとして自分の意見を発表してもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	この夏ころより異業種交流会や勉強会等が開催された。機会を見つけ参加していく予定である。今月にグループホーム連絡会に参加。意見交換など行った。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から困りごとや、不安などは聞き取りにくい行動や日頃の話などから探っている。入居後さらに会話の中や関わりの中で安心した生活の提供に努めている。安心できる生活の場所の提供に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごと、要望に添えるようにサービス計画を立てている。家族が見えていないところや今後考えられることなども詳しく説明してご理解いただけるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントやカンファレンスを十分に行うほか、他事業所にも相談してどのようなサービスが適切かを探って提供している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でご入居者に「ありがとうございます」と職員が御礼をいう機会は多く、家事活動をともにしたり、お知恵をいただいたり、他にも職員の体を気遣ってくれたり、美味しいものを分けてくれようとする関係が出来ている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のご要望に沿うためにご家族にも協力いただき外出支援など行った。また、バスハイクや夏祭りではご家族にボランティアとして参加いただいたりと協力を求めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新規のご入居者は医療連携において今まで馴染みのDr.に往診していただくことになった。他の外部との関係は途切れている。	予約制で時間や場所、人数を制限した面会を家族にお願いしているが、家族との外出や外泊の折には感染防止への配慮をお願いしている。毎年家族に年賀状を出す支援を継続し、お孫さんから年賀状をいただく方もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は皆さんがフロアで過ごされており、思い思いの場所でくつろがれている。時々意見の違いなどで話が混乱することがあるが、職員が間に入りトラブルにならないようにしている。「ご飯食べり」「どっか痛いんかね」など心配して声をかけてくださったりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了から暫くは連絡などがあり、近況などを知らせてくださる。相談や支援についてはサービス利用にかかわらず気軽に声をかけて欲しい旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握が困難な方が多く、日頃の会話の中や生活の中での気づきから思いを探るようにしている。ご家族の意見やこれまでの生活情報などから本人本位に検討し把握するようにも務めている。	入居時に家族が記載した生活歴等情報シートを全職員で共有し、さらなる思いや意向の把握に努めている。日々のお話し会では回想法を取り入れ、「家に帰りたい」や大声で手をたたき言動をそのまま受け入れている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、や居宅サービス、紹介者などから徐々に話を深めて生活歴の把握に努めている。これまでの暮らしの継続が一つでも二つでも継続できるようケアプランに反映している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での変化を見落とさないように職員間で常に情報のやり取りをしている。過介護にならないよう、時間は少し要してもそのかたの機能を活かせる準備を整える支援を心がけている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新前には職員会議でカンファレンスを行い、職員から多くの意見が聞けるようにしている。ご家族の意見、意向については面会時や電話の際などに伺うようにしている。	毎月のケアカンファレンスで、入居者の状況や職員の気づきなどを話し合い、現状に即した介護計画を作成している。食器洗いなどの役割の提供で物盗られ妄想を防止したり、傾眠傾向には覚醒を促して誤嚥防止に努めながら、希望の食形の食事を支援している。	高齢化や重度化に伴う入居者の状態変化や想定されるリスクを家族と共有した介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の入力はタブレットを使っている。タブレットの申し送り機能や訪問看護からの記録も確認できるようになっている。排泄記録に関しては誘導時間などの兼ね合いから一目できるようにペーパーに時間ごとに記録している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい情報交換や意見などを活かし、ご利用者に合ったニーズに応えられるように柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある様々な施設で外出を楽しんだり、地域の行事に参加させていただき、楽しむ事が出来た。市民センターでは文化祭もあり、皆さんの作品を見に行きたいと思っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、医療連携を図っている医師が4名あり、それぞれの医師と協力をして適切な医療の提供を行っている。ご本人やご家族の意向を優先し、入居後も安心した生活を提供している	入居前からのかかりつけ医に定期的な往診を受けられるように支援している。系列の訪問看護ステーションが全入居者の健康を管理し、受診前に個々のバイタルや服薬状況をかかりつけ医にFAXしたり、通院同行も支援している。個人で訪問歯科を受ける入居者もある。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人内で訪問看護を立ち上げ、7月から訪問看護えみのわと協働してご利用者の健康管理を行っている。入退院時にも同行を得られることが多くあった。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては変わらず、ご本人の生活情報などの提供を行っている。認知症状の進行を予防するうえでも早期の退院には協力的に行っている。退院後のカンファレンスにもご家族だけでは判断の難しいところが多く、必ず参加するようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時に看取りケアを行う施設であることは説明している。状態変化を見ながら早い段階でご家族には改めて看取りについての説明を行っている。このグループホームでもできることも説明しご理解とご協力のもと支援していくようにしている。職員にも改めて看取りケアについて話をした。	入居時や状況に応じて重度化や看取りについて説明している。ホームで最期をと医療機関から帰園され、1か月位で逝去された方は、ホームに着いた途端に開眼されている。全職員で声かけやスキンシップを励行し、アイスを味わってもらったり、クッションで褥瘡を防止している。看取りを自然な事と受け止め、今後も医療機関や訪問看護と密に連携した看取りを支援する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成。入職時に説明を行っている。応急処置や緊急時の対応については日ごろからも指導している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練実施とともに水害時の垂直避難などを行った。来年度に向けBCP作成に取り組んでいる。	消防車が5分程度で駆けつける地の利にあり、年1回は消防署立ち合いによる総合訓練を実施している。運営推進会議で申し出のあった自然災害時の一時避難を受け入れる予定で、災害時の事業継続計画策定に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは敬語を使うようにと指導している。子供に話しかけるような言葉になっていないかなど、気づきはすぐに注意しあい、常に職員の意識改善を図っている。	入居者に親し気な声かけではなく敬語を使うことや、職員同士の会話も言葉遣いに注意するように申し合わせている。清掃で訪室する際には、声掛けをした後にドアを開けるなど、プライバシーに配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今年度の全体研修のテーマが意思決定支援として行われる。職員が理解しやすいように研修推進委員会で取り組んでいる。意思決定の必要性から虐待防止へと深掘して適切な支援へと結び付けていく内容とする。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を行う上で職員の都合になりがちなどころを誰の為に良しとしているのかを考えるようにしている。職員同士でよく話し、ユニット間で協力しながらご利用者に寄り添った支援ができるように日々、工夫している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力もあり「お母さん、こんなのが好きよね」とか「そろそろ暑く(寒く)なってきたから」と新しい洋服や下着を届けていただき、笑顔で袖を通してます。洗面後のクリームや整髪だけでもとてもうれしそうにしてください。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月一回の調理レクを継続。春はお弁当を作りドライブなどで外での食事を楽しんだ。毎週金曜日にはロバのパン屋の訪問販売でパンを買って食べることを楽しみにしている。食後の食器拭きは毎回手伝っていただいている。	咀嚼や嚥下に応じた食形や量の食事をゆっくりと時間をかけて介助する入居者が多くなり、外出時も普通食や刻み食、ミキサー食と3種類の弁当を持参している。好みのパン食や月1回の食事レクも継続し、ノンアルコールを嗜むか否かを選択できるように用意するなど、夫々が食事を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の確保が難しい方や食事動作が難しい方が多くなり工夫している。パンは食べてくださる方には常に用意して提供している。水分ではジュースやお茶を麦茶に変えたり、クラッシュアイスなどで代替えしたりして一日の水分量を確保している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはできる方はご自分で行ってもらうように準備、声掛け、見守りを行っている。義歯の洗浄も毎食後行い清潔にしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄のこだわり、二人介助でも訴えがない方でも誘導してトイレで排尿、排便ができるようにしている。毎回失禁している方でも時間ごとにトイレに行き、便座に座る。時に便器に排尿があるとすっきりと気持ちよさそうにしている。これまでの清潔を継続させたいと思う。	トイレで快適な排泄を基本として、夫々の排泄パターンやサインに応じて、トイレでの排泄を支援している。日中は2人体制で支援し、夜間のみポータブルトイレ使用もある。感染症防止に配慮し、体位交換時や失禁量を確認してオムツや尿取りパットを交換したり、起こしてトイレに誘導する入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の水分量の確保や軽度の運動、腹部マッサージなどを行うことで定期的な排便があるようにしている。その方に合わせ、緩下剤の使用も行いながら便秘予防している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間が楽しめるように入浴剤を使ったり、男性職員を気にされる方は女性職員が対応したりしている。新しく浴槽にリフトを設置でき今まで浴槽に浸かることができなかった方もゆっくり温まっている。	半数以上の入居者がリフト付の浴槽にゆっくりと浸かっている。入浴剤を用意し、同性介助に応え、無添加や頭皮に配慮したシャンプーなどを使用する入居者もあり、入浴を楽しむことができるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動していただき夜間の良眠に繋がっている。中には毎日1時間程度午睡をとる方もおり、その方に合わせて休息を取っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がそれぞれ気づきなどあれば報告があり、服薬の見直し等訪問看護や医師に相談し、指導を受けながら適切に対応できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	晩酌を楽しみにしていたご入居者にノンアルコールビールを用意して希望があったときに飲んで頂いている。また、その方に合わせた家事活動を提供することで役割とらえてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年も、お話し会の内容などから海響館のバスハイクに行くことが出来た。ご家族の参加もあり普段の様子をみることを喜ばれていた。また、ご家族との外出もできるようになり、久しぶりに自宅に戻った方もいる。	管理者は外出の意義を理解し、日頃のお話し会で入居者の意向を尋ねている。散歩を兼ねて、周辺の桜や民家の花見に出かけたり、家族の外出ボランティアの参加で弁当を持参して出かけた海響館での笑顔のスナップが、ブログに掲載されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナが落ち着いたところで買い物レクなどを計画している。今は毎週のロバのパン屋の買い物が唯一お金を自分で払う機会になっている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話すことは稀になった。手紙のやり取りもできないが、ご家族からのお祝いの手紙などは嬉しそうにされている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に保ち廊下は安全に歩行できるように余計なものは置かないようにしている。季節に合わせた壁面の作品作りも継続して行っている。	各ユニットの壁には入居者のスナップ、大きな氏名とともに「100歳おめでとう」や系列事業所から贈られた敬老の日を祝う見事な張り絵が掲示されている。大型空気清浄機が2台置かれたりビングは、テーブルやイス、新しくなったソファが設置され、光や匂いに配慮し、心地よい空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを見て過ごされる方もいればテーブルでお話をしたり、手作業をしたりと様々である。時々、居室で休まれる方もあるがほとんどの方がフロアで過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で安全に心がけている。入居時にご本人の馴染みのものを持ってきていただくようお願いして、その方の生活空間を作れるようにしている。	入口に表札が掲示され、居室は清掃が行き届きクローゼットに荷物が整理され、居心地よく過ごせるように支援している。自宅からタンスや鏡台、仏壇などを持ち込んだり、伴侶の遺影に毎日手を合わせる方もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りは全面に設置、安全に移動できるように余分なものは置かないようにしている。		